

雷山通信

後世に誇りをもって継承
できるよう、美田と景観・
生活環境を守りましょ



持会 送電線雷山川ルート 建設反対を決議!

蔵持自治会は10月10日(日)、臨時常会を開催し、送電線雷山川ルート建設計画について満場一致で反対していくことを決議し、あわせて活動費として100万円の予算を計上した。これま

蔵持自治会は10月10日(日)、臨時常会を開催し、送電線雷山川ルート建設計画について満場一致で反対していくことを決議し、あわせて活動費として100万円の予算を計上した。これま

九電に土地を売りません!

蔵持農区・有田・7軒
有田中央地権者

7月24日(金)、蔵持農区と有田・有田中央地区の地権者代表は九州電力株式会社(福岡市中央区)を訪れ、眞部利應・代表取締役社長宛に、高圧送電線雷山川ルート建設計画の白紙撤回の要請書とともに、九電に対する土地の不売意志を表明した地権者97軒分の署名を提出した。

地権者、土地不売の署名提出

雷山川流域の2kmが反対

優良農地の中央を縦断する計画に対し、電磁波の人体

に対する影響、地価の下落、歴史的景観・田園風景の破壊、事業の必要性への疑問、ルート設定の

工事の手続きはまだこれから

送電線・変電所建設計画

送電線や変電所が新設・変更される場合、さまざまな申請手続きが必要となる。ここで重要な点は、すべての申請手続きは、地権者の同意があつて初めて可能となることである。

この送電線計画をめぐっては、「すでに建築許可がおりているので、今さら反対しても無駄だ」、あるいは「平野から見えない」等の理由から、雷山川ルート建設計画の白紙撤回を求めた。

同日、午後には前原市役所を訪れ、松本領男市長に、不売署名の写しを添えて建設反対運動への理解を求める要望書を手渡した。

また、これに先立つ7月21日(火)、JA糸島本店を訪れ、松尾照和・代表理事組合長宛に、建設反対運動への賛同を求める要望書を提出した。九電の計画では、JA系

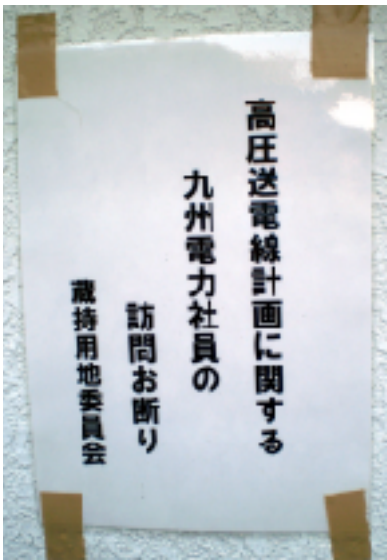
60mもの巨大な鉄塔の建設地を選定するにあたっては、事前に地盤等の地質調査がなされる。九電の当初の計画では平成20年秋に開始する予定であったが、地権者の同意を得られず、いまだに行われていない。「電気事業法」48条による工事計画の国への届出もまだなされていない。

九電との交渉窓口を一本化

蔵持農区

九電による高圧送電線雷山川ルート建設計画に対し、一昨年来、計画の不当性を訴え反対運動を続けてきた蔵持農区は、一致団結して九電と対応するため、交渉窓口を農区に一本化した。これまでも、計画の妥当性を住民に十分説明することなく地権者宅に戸別訪問を進める九電に対し、蔵持農区は戸別訪問の中止を要請してきたが、九電はこれを無視して訪問を続けた。

今回の措置はこれに対抗するためのもので、8月中旬〜下旬にかけて、交渉権を農区に任せる80軒分の委任状を集め、九電に対し特定記録郵便にて通知した。しかし、九電は通知後も、委任状を提出した地権者宅を訪問。蔵持農区は改めて九電に抗議を行うとともに、蔵持用地委員会名で各戸に九電の戸別訪問を断る看板を掲示した。



九電の戸別訪問お断り看板